

2021.
01.29/20
課題

1. 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(二十六点)

どの子にも涼しく風の吹く日かな 飯田龍太

この句には、「どの子」とは誰なのか、風の吹いている場所はどこなのか、現在のことなのか、過去のことなのか、時間は午前なのか午後なのか、そのような説明が何も書かれていない。わかっているのは、季節が夏であること、子供が複数いること、その子たちに涼しい風が分け隔てなく吹いているということだけである。

俳句が散文や報道記事などと違うのは、(①) されている部分を、読む人の自由な解釈で補って鑑賞できるというところである。この句を読んで、「どの子にも」とは自分のことだ、と思う人もあるだろうし、校庭の木陰でクラスメイトとくつろいでいるときのことだと思う人もあるだろう。幼児の頃、海辺で遊んだ体験を思い出す人もあるだろう。

そんな想像をかきたてる個々別々の言葉を一つにつないでいるのが、五・七・五という「(②)」と、「涼し」という夏を表す言葉、すなわち「(③)」である。詳しい説明を(①)する俳句には、一句の柱となる言葉に「(③)」を用い、それを五・七・五という「(②)」で表現するという基本的な約束がある。この約束を「有季(②)」といい、俳句という「(④)」を支える大きな力となっている。「涼し」が夏の「(③)」であることを知るには「(⑤)」を繰ればよい。

問一 俳句の特徴がわかる、(①) ～ (⑤) にあてはまる言葉を漢字で答えなさい。
(同じ番号には同じ言葉が入る。)(二点×五)

- | | |
|-------------------|-------|
| A 赤い椿白い椿と落ちにけり | 河東碧梧桐 |
| B バスを待ち大路の春をうたがはず | 石田波郷 |
| C 萬緑の中や吾子の歯生え初むる | 中村草田男 |
| D 飛び込みのもう真つ白な泡の中 | 神野紗希 |
| E 桐一葉日当りながら落ちにけり | 高浜虚子 |
| F 金剛の露ひとつぶや石の上 | 川端茅舎 |
| G 冬菊のまとふはおのがひかりのみ | 水原秋櫻子 |
| H 日と月のごとく二輪の寒牡丹 | 鷹羽狩行 |
| I 咳をしても一人 | 尾崎放哉 |

問二 A ～ I の句の中から、体言止めが用いられている句をすべて選び、記号で答えなさい。(完答二点)

問三 A の句の切れ字を答えなさい。(二点)

問四 C の句について答えなさい。

(1) 季語と季節を答えなさい。(完答二点)

(2) 句切れを答えなさい。(二点)

問五 F の句では、どのようなことを表現しているのか。解答欄の言葉に続けて、二十五字程度で書きなさい。
(四点)

問六 次の①と②は、俳句から読み取れる内容について、その特徴を説明している。説明にふさわしい俳句を、A ～ I から一つずつ選び、記号で答えなさい。(二点×二)

① 季語になった花の気高い姿を表現している。

② 明るい街の様子を感じ、季語になった季節の到来を喜ぶ様子を表現している。

二 次の漢文を読んで、あとの問いに答えなさい。(十二点)

Ⅰ 子曰、「学^{ビテ}而時^ニ習^フ之^ヲ、不^ニ亦^ニ説^{バシク}乎^ヤ。

有^リ朋^友自^ラ遠^方来^ル、不^ニ亦^ニ楽^{シク}乎^ヤ。

1 人^ニ不^レ知^ル而^{シテ}不^レ慍^ミ、不^ニ亦^ニ君^子乎^ト。」(学而)

Ⅱ 子曰、「温^{ミテ}故^{キヲ}而^{シテ}知^ル新^{キヲ}、可^ニ以^テ為^ル師^ト矣。」(為政)

Ⅲ 子曰、「学^{ビテ}而^{シテ}不^レ思^フ、則^チ罔^シ。思^フ而^{シテ}不^レ学^ブ、則^チ殆^シ。」(為政)

Ⅳ 子曰、「知^ル之^ヲ者、不^レ如^シ好^ム之^ヲ者^ニ。

好^ム之^ヲ者、不^レ如^シ楽^{シム}之^ヲ者^ニ。」(雍也)

問一 Ⅰ、Ⅳの「子」とは、ここではどのような意味で、誰を指しているか。(完答二点)

問二 Ⅰで、「学ぶ」が「知らないことを教わること」だとしたら、「習ぶ」とは、どのようなことが、簡潔に説明しなさい。(二点)

問三 1——線「人不知而不慍」を書き下し文に直しなさい。(二点)

問四 Ⅲの言葉は、どのようなことを述べた内容だととらえられるか。次から一つ選び、記号で答えなさい。(二点)

- ア 学問では、考えることより、学ぶことを優先することが大切だということ。
- イ 学問では、学ぶことより、考えることを優先することが大切だということ。
- ウ 学問は、学ぶことや考えることよりも大切な何かがあるということ。
- エ 学問においては、学ぶことも考えることもどちらも大切であるということ。

問五 Ⅳの2——線で述べられている内容を、三十字程度で書きなさい。(四点)

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(二十二点)

「自己ルール」を確かめ合う

批評ができるようになると、友達どうしの関係も変わってくる。単に趣味の合う者どうしではなく、趣味の違いを受け入れ合えるような関係になるのだ。友達どうしで「批評」を交わし合うこと、それは単に互いに自分の考えを表現し合うということではない。互いに「自己ルール」を言葉によって交換し合うということである。「自己ルール」とは、その人がそれまで生きてきた中で身につけている「よい・悪い」の¹ や、美意識の価値² の根拠のことだ。大切なのは、いろいろなものを批評し合うことで、友達と自分の「自己ルール」を確かめ合い、認め合い、そして調整し合っていくということなのである。そこに、³ 人間どうしのコミュニケーションの内実がある。

実は、こうした批評し合う関係によつてしか、人は自分の「自己ルール」を理解することはできない。私たちは誰でも、自分なりの「自己ルール」を、いわば感受性のメガネとして掛けている。これは長い時間をかけて形成されたものだ。だから、自分の感受性のメガネがたとえゆがんでいたとしても、自分一人では決してわからない。自分のメガネの見え方が適切かどうかに気づくのは、自分のものの見方と他人のものの見方とを比べて、その違いや偏りに気づくときだけである。

もちろん、全ての人が自分の「自己ルール」をもっているのだから、絶対に正しいものは存在しない。しかしそれでも、私たちは批評し合うことを通して、³さまざまな他者の「自己ルール」と自分の「自己ルール」との違いを少しずつ理解する。そのことで初めて、自分の「自己ルール」のありようを自覚し、了解する。また、批評を重ねてゆくことで、私たちは互いの「自己ルール」を、常によりよい形に編み直していくことができるのだ。

言葉の力と感受性

批評し合うことの中には、自分の感受性を高めていくという側面も含まれている。人間の感受性は、よりよいもの、より深いものを味わいながら育つていく。しかし、言葉のキャッチボールを通して自分の中に「批評する言葉」をため、言葉の力を育てていく努力をおろそかにするなら、自分の感受性をさらに高めてゆく道を見失い、⁴それを投げ捨ててしまうことになるだろう。

「批評する言葉」をためて、言葉の力を育てていくために必要なこと。それは当然のことだが、できるだけたくさんの優れた文章や小説に親しむこと。もう一つは、自分の考えをどう伝えるか以上に、人の言葉や言い方をよく聴き取ろうとする気持ちをもつこと。この二つが大事な秘けつなのだ。

問一 筆者の考えている「——線「自己ルール」」について答えなさい。

- (1) 「自己ルール」を別の言葉で例えた七字を書き抜きなさい。(二点)
(2) 「自己ルール」を具体的に説明した¹の²にあてはまる言葉を熟語で答えなさい。(二点)

問二 筆者は²——線「人間どうしのコミュニケーションの内実」はどのいうところにあると考えているか。「批評」「相手」の二語を用いて五十文字以内で書きなさい。(四点)

問三 ³——線「さまざまな他者の」を「少しずつ理解する」ことで、私たちはどうすることができると筆者は考えているか。本文中の言葉を用いて、四十文字程度で書きなさい。(四点)

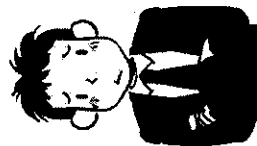
問四 ⁴——線「それ」とは何か。書き抜きなさい。(二点)

問五 文章の内容に合わないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(二点)

- ア 優れた文章に接することや他者の言葉をよく聴こうとする姿勢が、自分の感受性を高めることになる。
イ 自分の「自己ルール」と他者の「自己ルール」を一致させていくことが、「批評する言葉」をためる目的である。
ウ 自分の感受性を高めるためには、言葉のキャッチボールを通して、他者と批評し合うことが必要である。
エ 批評し合う中で、他者と自分との判断や価値基準の違いを認識することや、その違いを調整することが大切である。

問六 次の文章は、本文を読んだAくんの感想である。①～③にあてはまる適切な言葉を答えなさい。
①はあとのア～エから記号で選び、②は十字で、③は四字で本文から採りなさい。(二点×三)

僕の知っている人の中には、いつも自分の話ばかり一方的にする人がいます。そういう人は他者の「自己ルール」にしつかりと(①)としていないんだと思います。そうすると、その人はいつまでたっても(②)が見直されないの、(③)が育つこともないし、自分の感受性を高めることもないんだと思います。



ア 口を挟もう イ 耳を傾けよう ウ 目を光らそう エ 手を挙げよう

四、次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。(十点)

挨拶 — 原爆の写真によせて 石垣りん

「あ、
この焼けた顔は
その四五年の月日
五時の広島に
万の焼けた人のひとつ
すでに此の世にないもの
とは いえ
向友と
一度合った互の顔を
戦火の跡も直そう
すすやかかなどめぬ
すがすがしい今日の顔を
その顔の中に明日の表情をさがすとき
はりつぜんとするのだ
地球が原爆を数
生れ死の原爆を数
なせと死の原爆を数
あなは美しきわど
たは美しきわど
しずかに耳を澄ませ
²何かが近づいてき
見えきわめなければ
手の中にあるならば
³午前八時一五分は
毎朝やってくる
い——
九時一五分は
あなたに死んだ二五万人
やあなただけに美しく
すらかに美しく⁴油断していた。

問一 ¹——線「あ、」には作者のどのような思いが表れているか。次から一つ選び、記号で答えなさい。(二点)

- ア 過去を知ったときの怖さ
イ 写真を見たときの悲しみ
ウ 過去を知ったときの悔しさ
エ 写真を見たときの驚き

問二 ²——線「何か」とは何か。考えられないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(二点)

- ア 核兵器製造場所の不足
イ 戦争の危機
ウ 戦争で原爆が再び使われる状況
エ 核兵器の脅威による人の死

問三 ³——線「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現の意味を一つ選び、記号で答えなさい。(二点)

- ア 変化のない平凡な日常がこれからも長く続いていくということ。
イ 原爆の恐ろしさを忘れずに生きている人は必ずいるということ。
ウ 広島と同じような悲劇はいつ起きてもおかしくないということ。
エ 原爆の犠牲者を思う時間を毎朝もたなければならぬということ。

問四 ⁴——線「油断していた」とあるが、ここから作者が何を訴えようとしていることがわかるか。解答欄の言葉に続けて、四十五字以内で書きなさい。(四点)

五、和語・漢語・外来語の特徴を述べた次の文にあてはまる言葉をあとから一つずつ選び、記号で答えなさい。(二点×五)

・和語とは、もともと日本で使われていた語のことで(①)言葉ともいう。和語は(②)やすく意味を捉えやすいので、日常会話でよく用いられる。また、漢字の音読みが使われる語を漢語という。漢語は、硬い語感をもつ傾向があり、(③)的な意味を表す語も多い。そして、ニュースや新聞などでよく使われる。外来語はその多くが(④)期以降に欧米から新しい事物と共に取り入れられた語で、現在も数多くのものがある。外来語は新鮮さや(⑤)な印象を与える効果もある。

- ア 大正 イ 具体 ウ 万葉 エ 大和 オ 抽象 カ 親しみ キ 軽快
ク 覚え ケ 素敵 コ 昭和 サ 安全 シ 重厚 ス 明治 セ 作られ

六、次の漢字に関する事柄について、あとの問いに答えなさい。(十点)

問一 次の熟語が重箱読みならA、湯桶読みならB、どちらでもないならXを書きなさい。(二点×三)

- ①整頓 ②手本 ③着物

問二 熟字訓 ①五月雨 ②雪崩 は、熟字訓で何と読むか。解答用紙に書きなさい。(二点×二)

七、次の——線のひらがなを、漢字に直しなさい。送り仮名が必要なものは送り仮名も書きなさい。(一点×一〇)

- ①試合のかんせん ②彼はきしよつが激しい ③津波をけいかいする ④地震をよちする ⑤過去をかえりみる
⑥ほつふな資源 ⑦しゅつしゅつがつかない状態 ⑧機械のせいさく図 ⑨むしよつが喜ぶ ⑩台風にそなえる

三年組 番氏名

〔気をつけたいこと〕

- ① ていねいな文字で書きましょう。
- ② トメ、ハネ、ハライなどはしっかりと書きましょう。
- ③ 早くできたときは、よく見直しをしてください。

関心・意欲・態度	/10
書くこと	
読むこと	/20
	/40
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	
	/30

/100

一、問一

①

②

③

④

⑤

問二

完答

問三

問四

(1)

季節

季節

(2)

問五

露はすぐに消えるはかないものだが、それが石の上で、

25

問六

①

②

二、問一

意味

誰

問二

問三

問四

問五

30

